

大学院専攻共通科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
人文社会科学研究	死から生を考える臨床 死生学:人間の死とは何 か？	2	大村 哲夫	1学期	月	3	1
人文社会科学研究	よりよい研究のための 倫理	2	原 塑	1学期	月	4	2
人文社会科学研究	近代日本の歴史	2	クレイグ クリストファー	1学期	火	2	3
人文社会科学研究	死生学と宗教文化	2	高橋 原. 大村 哲夫	1学期	木	5	4
人文社会科学研究	臨床宗教師とスピリ チュアルケア	2	谷山 洋三	2学期	月	2	5
人文社会科学研究	悲嘆学試論	2	大村 哲夫	2学期	月	3	6
人文社会科学研究	日本文化と社会	2	クレイグ クリストファー	2学期	火	2	7
人文社会科学研究	宗教、スピリチュアリ ティ、心理療法	2	高橋 原	2学期	水	3	8
人文社会科学研究	研究と実践の倫理	2	行場 次朗. 戸島 貴代志. 阿部 恒之. 木村 邦博. 坂井 信之. 辻本 昌弘. 小林 隆. 小泉 政利	2学期	水	5	9
人文社会科学研究	実践宗教学試論～宗 教者によるケア実践	2	高橋 原. 木村 敏明. 谷山 洋三	2学期	木	5	10
英語研究論文作成法	Advanced Academic Writing I	2	マックス・フィリップス	1学期	水	4	11
英語研究論文作成法	Advanced Academic Writing II	2	マックス・フィリップス	2学期	水	4	12
日本語研究論文作成法	日本語表現論Ⅰ	2	高橋 章則	1学期	木	2	13
日本語研究論文作成法	日本語表現論Ⅱ	2	高橋 章則	2学期	木	2	14
日本文化研究演習	古典講読Ⅰ	2	高橋 章則	1学期	月	2	15
日本文化研究演習	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	1学期	火	4	16
日本文化研究演習	現代評論講読Ⅰ	2	高橋 章則	1学期	水	2	17

大学院専攻共通科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本文化研究演習	古典講読Ⅱ	2	高橋 章則	2学期	月	2	18
日本文化研究演習	日本史基礎文献購読	2	クレイグ クリストファー	2学期	火	4	19
日本文化研究演習	現代評論講読Ⅱ	2	高橋 章則	2学期	水	2	20

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（助教）

講義コード：LM11307， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？

2. Course Title (授業題目)：

Clinical thanatology thinking about life from death: What is a person's death?

3. 授業の目的と概要：

人は自らの死を予め体験することはできないが，他者の死を通して学ぶことはできる。人間だけが，「自分も死ぬことを意識できる動物」である。死は「自然現象」であると同時に，自他の死を受容する「文化現象」である。

ヒトという生物の生である「人生」は，自己と他者である事物を結びつけ，それに意味を与えることで作られる。「偶然」のできごとを，「運命」の出会いとするなど，人の生は合理的な思考のみで生きているわけではない。人生そのものが，映画や小説のテーマになるように，人は非合理的な生き方に意味を見出している。人があえて「合理的ではない行為」をとるとき，その行為には深い心理的な意味が込められている。人の死に関わる「葬送」、「慰霊（供養）」、「墓参」なども非合理的な行為であるが，当事者にとって意味ある行為となる。自他の死の受容についても同様に合理と非合理，立場の相違によって揺れる。本講では，具体的な「他者の死」から「自己の死」をデザインすることを通して，私たち一人一人の人間としての「生」を摸索する一助としたい。

4. 学習の到達目標：

1. タブー視されがちな自他の「死」を，具体的な事例を通して考えることによって，自らの「生」の意味をさぐる。 2. 「延命治療」や「尊厳死」，脳死，臓器移植，緩和医療，死に場所，「終活」，葬儀など現代の問題について自ら考える力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）について事例を通して考える。

それぞれのテーマについて1-2回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって，死に方・生き方には普遍的「正解」はなく，それぞれの人やおかれている状況によって異なることを学ぶ。

0. イントロダクション：闇の中でこそ光が。

1. 現代人の死に場所：病院死と在宅死。

2. 「ホスピス」とシシリー・ソンドース。

3. 緩和医療におけるスピリチュアルケア。

4. 臓器は誰のもの：死の判定と臓器移植。

5. あらかじめ決める：「安楽死」と「尊厳死」。事前指示とその問題。

6. 自らの死をデザインする：「エンディング・ノート」，「終活」。

7. 死を受容する心理：キューブラー=ロスの五段階説。

8. グリーフ・ワークとしての5段階と意味再構成。

9. 「よく生きる」ことと「ただ生きる」こと：生きる価値とは何か。

10. 「ある少女の選択」：いのちは誰のもの？。

11. 「死者ヴィジョン」の出現：医学的説明と文化的意味。

12. 「ここは天国」：認知症の世界と死の受容。

13. 寝たきりの生：『病牀六尺』の世界。

14. グアテマラの宗教文化。

6. 成績評価方法：

毎時ミニット・ペーパー提出。学期末課題論文提出。

7. 教科書および参考書：

特に定めないが，授業の中で参考図書を紹介する。Additional references and texts will be provided by the instructor.

8. 授業時間外学習：

40分程度の予習。About 40 minutes of study is required.

9. その他：

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：原 塑 (准教授)

講義コード：LM11407, **科目ナンバリング：**LAL-OHS501B, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

よりよい研究のための倫理

2. Course Title (授業題目)：

Research Ethics and Research Integrity

3. 授業の目的と概要：

人文社会科学・自然科学の研究成果は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、その一方で、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、あるいは、人々を誤った仕方で導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生や大学院生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行う責任を負っています。この授業では、大学生や大学院生が、よい研究者になるために、どのような仕方で行うのが望ましいのか、また望ましくないのかを学ぶことを目的とします。

この授業は講義とワークショップという二つのパートからなります。講義では、まず研究倫理を概観した後で、その中の幾つかのトピック（査読、利益相反、軍事研究など）を深く議論します。ワークショップでは、受講者は「よい研究者」になるための方策や条件を、グループワークを行うことで考察していきます。

4. 学習の到達目標：

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 責任ある仕方で行う研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範について学び、そのような規範を遵守すべき理由を理解すること。
3. 研究不正行為のさまざまな種類を理解し、なぜそのような不正行為が望ましくないのかを説明できるようになること。
4. 不正行為が発生する状況を理解し、責任ある研究者にふさわしい判断を下せるようになること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、以下のテーマを取りあげます。

1. イントロダクション
2. 実験研究の倫理
3. フィールド研究の倫理
4. 文献研究の倫理
5. 科学者の責任
6. ピアレビュー
7. 研究の再現性
8. 利益相反
9. 軍事研究
- 10～15. 研究に関するワークショップ

6. 成績評価方法：

授業中の討論やワークショップへの参加（60％）、レポートの提出（40％）

7. 教科書および参考書：

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』丸善出版、2015年

8. 授業時間外学習：

CITI Japan や学術振興会などが提供する研究倫理 e-learning を受講することを強くお勧めします。

9. その他：

ワークショップは学期中2日間を使って、集中して行います。ワークショップの開催日程を決めるため、初回の授業（4月9日に実施）に必ず出席してください。初回の授業に出席することができない場合には、講義担当者の原塑（電子メール：plastikfeld@gmail.com）に電子メール等で連絡してください。

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LM12210， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：英語

1. 授業題目：

近代日本の歴史

2. Course Title (授業題目)：

Modern Japanese History

3. 授業の目的と概要：

授業は、世界史の一環として日本の近代史を学ぶ。世界という観点から日本を学ぶことによって、日本の近代・現代世界における位置の理解を深める。扱う時代は 1800 年から現在までである。

日本史に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学の考え方を学ぶ。

与えられた日本史の英語文献を読み、英語で論文を作成することにより、英語圏のアカデミックな日本史を学ぶだけでなく、英論文作成を学ぶことができる。

4. 学習の到達目標：

近代日本史に関する歴史学的な問題や主要な文献を意識する。

英語での歴史学のあり方を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. The Twilight of the Tokugawa: Japan in 1800
2. The Best of Times, the Worst of Times: Japan 1790-1844
3. Black Ships and Revolutions
4. Making Meiji: Establishing the State
5. New Days in Meiji Japan: The Cultural Revolution
6. Wither Imperialism?: Early Meiji Foreign Relations
7. Imperialism II: Bestial Inoculation
8. Can't Win for Losing: World War I and Imperial Democracy
9. Erotic, Grotesque, Nonsense: Authoritarian Backlash
10. Apocalypse: The Greater East Asian War
11. Atomic Peace: The American Occupation
12. The Three Deaths: Economy, Labour, Politics, 1950-1960
13. The Miraculous and the Mundane: Economy and International Relations, 1960-80
14. Gilded Toilets and Bursting Bubbles: Economic Growth and Crash
15. The Post-Postwar

6. 成績評価方法：

リアクション・ペーパー[45%] ・地図テスト[10%] ・出席・ディスカッション[45%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

2 回資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

2 reading responses are to be submitted during the semester.

9. その他：

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 原 大村 哲夫（教授、助教）

講義コード：LM14503， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

死生学と宗教文化

2. Course Title (授業題目)：

Thanatology, Religion and Culture

3. 授業の目的と概要：

死生学と宗教文化に関する文献を毎回一本読み、人間の死と生について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

人間がどのように死と向き合ってきたのか、多様な文化の視点から考え、表現する視点を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

『死生学年報』（東洋英和女学院大学死生学研究所）のバックナンバーから下記の論文を取り上げる（予定）。
具体的な進め方については初回に話しあって決める。

- (1) 死生学の誕生と死生観の探求 ―死をめぐる新しい文化の広がり― 島 蘭 進 2013
- (2) 「スピリチュアリティ」概念の再考 ―スピリチュアリティは霊的世界観を前提とするか？― 安藤泰至 2008
- (3) 死者の「祭祀」と「供養」をめぐって 池上良正 2006
- (4) 王朝人における死への眼差し ―臨終行儀と往生夢― 河東 仁 2006
- (5) 江戸の怪談にみる死生観 佐藤弘夫 2013
- (6) 宮沢賢治の悲嘆体験と立ち直りの過程について―妹トシの死との関連において― 平山正実 2005
- (7) 日本のシャーマニズムと死者との交流 佐藤憲昭 2014
- (8) 生のかたち、死のかたち ―西洋の美術表現を中心に― 佐倉 香 2007
- (9) ヒルデガルト・フォン・ビンゲン ―幻視と生きる― 鈴木桂子 2011
- (10) 死の舞踏の成立と伝播 小池寿子 2009
- (11) 死後の生―死生学における「宗教の領分」― 鶴岡賀雄 2011

6. 成績評価方法：

出席回数・授業内の発言などから総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

毎回の課題論文をコピーして配付する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献により理解を深める。

9. その他：

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：谷山 洋三（准教授）

講義コード：LM21204， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

臨床宗教師とスピリチュアルケア

2. Course Title (授業題目)：

Interfaith Chaplain and Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：

臨床宗教師は公共空間でスピリチュアルケア、宗教的ケアを提供する宗教者である。スピリチュアルケアは、ホスピス運動に伴って日本に紹介され、緩和ケアの領域においては一定の理解を得られているものの、定着しているとは言いがたい。宗教的ケアは、欧米では「パストラルケア」としてキリスト者によって提供されてきたが、視点を替えれば、日本でも仏教、神道などでも概念化されないまま伝統的に実践されて来たと言うこともできる。臨床宗教師の実践に基づいて、この2つのケアの内容、相違点、共通点などについて考察する。また、体験的なワークを通して擬似的にスピリチュアルケア、宗教的ケアを体験することで、理解を深めたい。

4. 学習の到達目標：

臨床宗教師が提供するスピリチュアルケア、宗教的ケアについて基礎知識を得る

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. チャプレンとビハラー僧
3. 「臨床宗教師」の誕生
4. 生活の中にある心のケア
5. スピリチュアルペイン
6. スピリチュアルな探求
7. 「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
8. 「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
9. 宗教的資源の活用
10. 宗教的ケア
11. 臨床宗教師の可能性
12. 臨床宗教師の資質
13. ワークショップ「死の体験」
14. ワークショップ振り返り
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート[50%]、出席・討論への参加等[50%]

7. 教科書および参考書：

教科書（必ず購入してください）：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア：臨床宗教師の視点から』中外医学社、2016年（2600円＋税）

参考書：鎌田東二（編）『講座スピリチュアル学第1巻 スピリチュアルケア』ビーイング・ネット・プレス、2014年

8. 授業時間外学習：

予習：事前に指示した教科書の範囲を精読する

復習：授業で学んだことについて、実際の場면을想像しながら考察する

9. その他：

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：大村 哲夫（助教）

講義コード：LM21308， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

悲嘆学試論

2. Course Title (授業題目)：

Grief Studies Theory

3. 授業の目的と概要：

人は生きていく上でさまざまな「悲嘆 (grief)」と遭遇する。自分にとってかけがえのないもの：自分のいのち，大切な人，ペット，故郷，記念となる物…を「喪失 (loss)」した時，私たちは心理面はもちろん，身体的にも痛みを覚え，さまざまな症状をおこす。「悲嘆」とそれへの対応は，人類のはじまりより共にあるものの，「学」として確立された領域というより，むしろ実践的な「知恵」の側面をもつ。本講ではこうした現状を踏まえ，悲嘆をケアすること (grief care) と，悲嘆からの立ち直り (grief work) について，「宗教」の役割にも触れつつ考えていきたい。

4. 学習の到達目標：

1. 悲嘆という現象について理解する。2. 悲嘆を癒す「グリーフ・ケア」について学ぶ。3. 悲嘆からの立ち直り「グリーフ・ワーク」について学ぶ。4. 悲嘆と共に生きることにについて考える力をつける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）について，できる限り事例を通して考える。

それぞれのテーマについて 1-2 回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって，自ら考えとともに他者の考えを知り，考えを深める。

0. イントロダクション：「永訣の朝」 他者の死と私

1. 悲嘆と喪失

2. 苦しみの意味づけ

3. 自己の死と予期悲嘆

4. 看取り

5. 死別の癒し：葬儀・宗教儀礼の意味

6. 意味再構成理論

7. 『子を喪へるの親の心』

8. 災害死

9. 犯罪被害

10. 自死

11. 死者におくる卒業証書

12. 民間信仰：地藏によるケア

13. 信仰治療 宗教と癒しなど

14. 現代的死の受容：遍在と自然回帰

15. その他

6. 成績評価方法：

毎時ミニット・ペーパーの提出。学期末課題論文提出。

7. 教科書および参考書：

特に定めないが，授業の中で参考図書を紹介する。Additional references and texts will be provided by the instructor.

8. 授業時間外学習：

40 分程度の予習。About 40 minutes of study is required.

9. その他：

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LM22210， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：英語

1. 授業題目：

日本文化と社会

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Culture and Society

3. 授業の目的と概要：

授業は、現在日本の文化・社会と日本や海外においてそれを対象とする学問を紹介する。日本文化・社会に関する最近の英語で書かれた文献を紹介して、それを資料として質疑応答などし歴史学や社会学の考え方を学ぶ。

参加する学生の日本における経験そのものは資料となり、ディスカッションや発表でそれをアカデミックな視点から考え方を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

現在日本文化や社会に関する歴史的な問題や主要な文献を意識する。

「日本文化」という理念の神秘性をなくし、日本文化に関する本質主義的な思想を問題視する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction: The myth of national culture
2. Background: Japan since World War II
3. Middleness and disparity: Class in Contemporary Japan
4. Gender and work
5. The changing nature of employment
6. Education and class
7. Youth, crime, and punishment
8. Family life: men
9. Family life: women
10. Self and other in Japan
11. Invisibility and minority
12. Presentations
13. Presentations
14. The foreign in the everyday
15. 3.11

6. 成績評価方法：

発表[40%]・リアクション・ペーパー[20%]・出席・ディスカッション[40%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

Reading responses are to be submitted during the semester.

9. その他：

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 原（教授）

講義コード：LM23311， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

宗教、スピリチュアリティ、心理療法

2. Course Title (授業題目)：

Religion, Spirituality and psychotherapy

3. 授業の目的と概要：

宗教体験と心理療法について、危機に際して発動するスピリチュアリティという視点から考える。

4. 学習の到達目標：

スピリチュアリティとは何か、宗教体験と心理療法の関係から自分なりに説明できるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

人生の危機に際して発動するスピリチュアリティの諸相と、その統御を組み込んだ心理療法的な実践について次のようなトピックを取り上げる（順不同）。

1. 「無意識の発見」と原始的心理療法
2. 悪魔祓（エクソシズム）について
3. 「野の医者」と心理療法
4. 人生の危機とスピリチュアリティの発動（吉本伊信、エリザベス・キューブラ＝ロス、その他）
5. 宗教的体験と心理療法

6. 成績評価方法：

期末レポートによる。授業内で小レポートを課す場合もある。

7. 教科書および参考書：

東畑開人『野の医者は笑う』（誠信書房）他、適宜、授業内で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献により理解を深める。

9. その他：

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：行場 次朗、戸島 貴代志、阿部 恒之、木村 邦博、坂井 信之、辻本 昌弘、小林 隆、小泉 政利（教授 他）

講義コード：LM23508， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

研究と実践の倫理

2. Course Title (授業題目)：

Ethical problems in research and practical activities

3. 授業の目的と概要：

人文社会科学の分野で行われている複数の研究手法である調査、実験、フィールドワーク、聞き取り調査、歴史資料の収集や、研究不正などに関わる倫理的諸問題を複数教員が担当して解説する。

4. 学習の到達目標：

人文社会科学の諸分野における研究と、その知識に基づく社会的実践の場における倫理の基礎を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 人間と技術
3. 科学と倫理
4. 人を対象とした実験研究における倫理
5. 動物を対象とした実験研究における倫理
6. 社会心理学実験における倫理
7. 社会調査研究に必要な実践的問題と倫理
8. 調査研究における倫理問題の国内外の動向
9. 企業における研究・特許等の問題について
10. フィールドワークにおける倫理の問題
11. 海外でのフィールドワークの注意点
12. 聞き取り調査の実践と倫理の諸問題
13. 研究倫理の国内外の動向
14. 研究不正の防止と対応
15. 全体のまとめとレビュー

6. 成績評価方法：

出席 40%、レポート 60%

7. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

8. 授業時間外学習：

それぞれの担当教員の授業によっては、小レポート課題を出すことがある。成績評価の対象となる学期末のレポートについては、準備に時間がかかるので、ノートの整理や、指示された、あるいは関連する参考資料をあらかじめ収集しておくこと。

9. その他：

科目名：人文社会科学研究／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 原、木村 敏明、谷山 洋三（教授 他）

講義コード：LM24503， 科目ナンバリング：LAL-OHS501B， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

実践宗教学試論～宗教者によるケア実践

2. Course Title (授業題目)：

Practice of care by religious specialists

3. 授業の目的と概要：

宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者を招く回があります。

各回の内容、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師の理念
2. グリーフケアと宗教
3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

6. 成績評価方法：

出席回数、毎回提出のミニットペーパーによる。

7. 教科書および参考書：

特に指定しないが授業内で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業内で指示する参考文献等で学習を深める。

9. その他：

科目名：英語研究論文作成法／ Advanced English for Academic writing

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LM13406， 科目ナンバリング：LAL-OHU501E， 使用言語：英語

1. 授業題目：

Advanced Academic Writing I

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Academic Writing I

3. 授業の目的と概要：

The course is designed as an introduction to academic writing at the graduate level. Students will be learn how to logically arrange their thoughts and ideas into coherent essays. As part of the course, students will learn: a) how to write effective thesis statements, b) strategies for pre-writing, writing, organization, revising and proofreading, c) various word-, sentence-, and paragraph- level strategies for improving the quality of their writing, and d) how to focus and develop ideas, among other things.

4. 学習の到達目標：

Students will learn how to organize their English writing to an appropriate level, through a systematic, step-by-step approach.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; Writing Format; Plagiarism; Capitalization Rules
- 2) Essay 1 Assignment; Introduction to English Writing; Pre-writing Strategies
- 3) Basic Sentence Structure; Parallelism Rules
- 4) Writing an Outline; Basic Paragraph Structure
- 5) Basic Essay Structure
- 6) Introduction to Peer Review, Revision, and Proofreading
- 7) Workshop 1 (Rough Draft of Essay 1); Essay 2 Assignment
- 8) Introduction and Conclusion Writing; Essay 3 Assignment
- 9) Understanding Logic, Audience, Tone; Organization 1 - Compare/Contrast
- 10) Organization 2 - Chronological Order
- 11) Organization 3 - Cause/Effect
- 12) Workshop 2 (E2 one-on-one)
- 13) Effective Thesis Statement Writing; Gender Neutral Language
- 14) Workshop 3
- 15) Semester Exam

6. 成績評価方法：

Final grade to be determined by submitted essays and workshop participation.

7. 教科書および参考書：

Course Syllabus based on "Discoveries in Academic Writing," by Barbara Harris Leonhard and "Teaching Academic Writing" by Eli Hinkel.

8. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. No auditors are permitted.

9. その他：

科目名：英語研究論文作成法／ Advanced English for Academic writing

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：マックス・フィリップス（非常勤講師）

講義コード：LM23408， 科目ナンバリング：LAL-OHU501E， 使用言語：英語

1. 授業題目：

Advanced Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：

Prerequisite: Successful completion of AAWI. In addition to research writing, AAWII seeks to develop students' ability to adapt to a broader range of writing situations, while writing at a deeper level. AAWII encourages the development of an individual 'voice'. For example, where in AAWI a student might have developed the ability to write an essay clearly and persuasively for an educated general audience, AAW II seeks to move beyond that to developing a unique perspective and voice appropriate to higher level academic writing.

4. 学習の到達目標：

Students will learn how to organize and write a multi-page research paper, which necessarily includes citations to others people's work.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Course Introduction; The Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources
- 3) Gathering Source Material - Evaluating Sources
- 4) Note-Taking
- 5) Using the Internet for Research
- 6) Considering Organization
- 7) How to Organize Notes / Write Outline
- 8) Workshop 1 (Outline - rough draft)
- 9) Integrating Source Material; First Draft Writing
- 10) Understanding Citations; Documenting Sources In-text
- 11) Paper Format; Documenting Sources Post-text
- 12) Workshop 2 (rough draft of main body)
- 13) Abstract Writing; Writing Introduction and Conclusion for Research Papers
- 14) Writing Workshop 3 (rough draft of paper)
- 15) Oral Presentations of Research Paper

6. 成績評価方法：

Final grade will be determined by research paper, and workshop participation.

7. 教科書および参考書：

Course Syllabus based in part on: MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing, 3rd Ed.

8. 授業時間外学習：

Attendance is mandatory. Students who accrue more than 2 unexcused absences will be expelled from the course. Absolutely no auditors.

9. その他：

科目名：日本語研究論文作成法／ Advanced Japanese for Academic writing

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM14213， 科目ナンバリング：LAL-0HU502J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語表現論 I

2. Course Title (授業題目)：

Japanese expression theory I

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。

日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。

レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語研究論文作成法」（2 学期）の連続履修が望ましい。

4. 学習の到達目標：

日本語論文作成の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 入門 1 論文とは 日本における論文作成のルール
2. 入門 2 論文作成の実際 先行研究の重要性
3. 入門 3 論文の構成 1 構成の作り方
4. 入門 4 論文の構成 2 序論の構成要素
5. 入門 5 論文の構成 3 研究の視点
6. 入門 6 論文の作成 1 先行論文の検索
7. 入門 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法
8. 入門 8 論文の作成 3 序論の意義
9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究
10. 実践 2 序論の作成① 背景説明
11. 実践 3 序論の作成② 問題点の明示
12. 実践 4 序論の作成③ 研究目的の明示
13. 実践 5 資料・データの利用
14. 実践 6 序論に対応した結論
15. まとめと評価 レポートの作成

6. 成績評価方法：

レポート提出

7. 教科書および参考書：

『論文ワークブック』（くろしお出版）

8. 授業時間外学習：

レポート作成

9. その他：

外国人留学生を対象とする。

科目名：日本語研究論文作成法／ Advanced Japanese for Academic writing

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM24213， 科目ナンバリング：LAL-0HU502J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語表現論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Japanese expression theory Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語についての知識と表現技術（作文・会話の両面）とを実践的・系統的に学ぶ。
あわせて日本語理解に不可欠な歴史的・文化的背景についても学ぶ。

日本語の能力は、「理解力」と「表現力」の両面から成り立ち、表裏一体をなすものである。この学期での学習の目的は、母国で習得してきた日本語の表現力を系統的に整理し直し、「理解力」「表現力」を高めるための基礎を確立することにある。主に、文章の表記・表現の基礎的な理解と技術を学ぶ。

レポートの提出とそれへの添削によって、能力に応じた文章指導が行われる。「日本語研究論文作成法」（1 学期）との連続履修が望ましい。

4. 学習の到達目標：

日本語研究論文作成の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 入門 1 論文とは 日本における論文作成のルール
2. 入門 2 論文作成の実際 先行研究の重要性
3. 入門 3 論文の構成 1 構成の作り方
4. 入門 4 論文の構成 2 序論の構成要素
5. 入門 5 論文の構成 3 研究の視点
6. 入門 6 論文の作成 1 先行論文の検索
7. 入門 7 論文の作成 2 先行論文の引用作法
8. 入門 8 論文の作成 3 序論の意義
9. 実践 1 論文題名の決定と先行研究
10. 実践 2 序論の作成① 背景説明
11. 実践 3 序論の作成② 問題点の明示
12. 実践 4 序論の作成③ 研究目的の明示
13. 実践 5 資料・データの利用
14. 実践 6 序論に対応した結論
15. まとめと評価 レポートの作成

6. 成績評価方法：

レポート提出

7. 教科書および参考書：

『論文ワークブック』（くろしお出版）

8. 授業時間外学習：

レポート作成

9. その他：

外国人留学生を対象とする。

科目名：日本文化研究演習／ Japanese Culture(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM11208， 科目ナンバリング：LAL-OHU503J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典講読 I

2. Course Title (授業題目)：

Classic reading I

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。

古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は

歌川広重「狂歌入り東海道」

である。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 入門 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か
2. 入門 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌
3. 入門 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版
4. 入門 4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール
5. 研究演習 1 内裏・京
6. 研究演習 2 大津・草津
7. 研究演習 3 石部・水口
8. 研究演習 4 土山・坂之下
9. 研究演習 5 関・亀山
10. 実地演習 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修
11. 研究演習 6 庄野・石薬師
12. 研究演習 7 四日市・桑名
13. 研究演習 8 宮・鳴海
14. 研究演習 9 藤川・赤坂
15. まとめと評価 「狂歌」関連出版物の研究意義

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本文化研究演習／ Japanese Culture(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LM12412， 科目ナンバリング：LAL-OHU503J， 使用言語：英語

1. 授業題目：

日本史基礎文献購読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction to source material
2. Reading and translation presentation
3. Reading and translation presentation
4. Reading and translation presentation
5. Reading and translation presentation
6. Reading and translation presentation
7. Reading and translation presentation
8. Reading and translation presentation
9. Reading and translation presentation
10. Reading and translation presentation
11. Reading and translation presentation
12. Reading and translation presentation
13. Reading and translation presentation
14. Reading and translation presentation
15. Reading and translation presentation

6. 成績評価方法：

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

9. その他：

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：日本文化研究演習／ Japanese Culture(Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM13210， 科目ナンバリング：LAL-OHU503J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代評論講読 I

2. Course Title (授業題目)：

Modern sentence reading I

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。

日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 入門 1 日本文化を考える（1）
2. 入門 2 日本文化を考える（2）
3. 入門 3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む（1）
4. 入門 4 『日本文化史』「はじめに」を読む（2）
5. 入門 5 「日本文化論」の変容をめぐって
6. 演習 1 ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール
7. 演習 2 『菊と刀』②
8. 演習 3 『菊と刀』③
9. 演習 4 『菊と刀』④
10. 演習 5 『菊と刀』⑤
11. 演習 6 『菊と刀』⑥
12. 演習 7 『菊と刀』⑦
13. 演習 8 『菊と刀』⑧
14. 演習 9 『菊と刀』⑨
15. まとめと評価 『菊と刀』から新たな日本文化論へ

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本文化研究演習／ Japanese Culture(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM21205， 科目ナンバリング：LAL-OHU503J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典講読Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Classic reading Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。古典（漢文を含む）を対象とし、日本古典とその背景をなす日本文化・日本歴史の系統的な理解を目指す。

古典を読み、漢文を訓読する際に必要な文法をはじめとした基礎知識と日本文化に関する調査技術とを身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

本年度は、日本文化の多面的な研究の一環として、文献資料（文学作品）と絵画資料（浮世絵）の融合した独自のジャンルである「狂歌摺物（すりもの）」を取り上げる。素材は

歌川広重「狂歌入り東海道」

である。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 入門 1 日本文化と浮世絵、「狂歌摺物」とは何か
2. 入門 2 「狂歌」研究の意義、歌川広重と狂歌
3. 入門 3 広重「東海道五十三次」について、東海道シリーズの諸版
4. 入門 4 「狂歌入り東海道」について、「演習」のルール
5. 演習 1 日本橋・品川
6. 演習 2 川崎・神奈川
7. 演習 3 保土ヶ谷・戸塚
8. 演習 4 藤沢・平塚
9. 演習 5 大磯・小田原
10. 実地演習 1 浮世絵鑑賞、広重美術館（天童）での研修
11. 演習 6 箱根・三島
12. 演習 7 沼津・原
13. 演習 8 吉原・蒲原
14. 演習 9 由井・興津
15. まとめと評価 「狂歌摺物」調査から浮世絵研究へ

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

『慶應義塾大学 高橋誠一郎浮世絵コレクション 広重 東海道五十三次 八種四百十八景』（小学館）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）

科目名：日本文化研究演習／ Japanese Culture(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LM22410， 科目ナンバリング：LAL-OHU503J， 使用言語：英語

1. 授業題目：

日本史基礎文献購読

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. 学習の到達目標：

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introduction to source material
2. Reading and translation presentation
3. Reading and translation presentation
4. Reading and translation presentation
5. Reading and translation presentation
6. Reading and translation presentation
7. Reading and translation presentation
8. Reading and translation presentation
9. Reading and translation presentation
10. Reading and translation presentation
11. Reading and translation presentation
12. Reading and translation presentation
13. Reading and translation presentation
14. Reading and translation presentation
15. Reading and translation presentation

6. 成績評価方法：

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

7. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

8. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

9. その他：

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：日本文化研究演習／ Japanese Culture(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LM23210， 科目ナンバリング：LAL-OHU503J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代評論講読Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Modern sentence reading Ⅱ

3. 授業の目的と概要：

専門課程で学ぶ外国人留学生に必要な日本語と日本文化についての知識獲得のための講読（意味・内容などを説明しながら書物を読み進めること）。現代文を対象とする。

日本語と日本文化を系統的に理解する際に不可欠な基礎知識と日本文化に関する調査技術とを講読を通じて身につけることを目的とする。

毎時間の講読担当者の発表が前提となる。

4. 学習の到達目標：

日本研究の基礎確立

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 入門1 日本文化を考える（1）
2. 入門2 日本文化を考える（2）
3. 入門3 家永三郎『日本文化史』「はじめに」を読む（1）
4. 入門4 『日本文化史』「はじめに」を読む（2）
5. 入門5 「日本文化論」の変容をめぐって
6. 演習1 ベネディクト『菊と刀』① 演習のルール
7. 演習2 『菊と刀』②
8. 演習3 『菊と刀』③
9. 演習4 『菊と刀』④
10. 演習5 『菊と刀』⑤
11. 演習6 『菊と刀』⑥
12. 演習7 『菊と刀』⑦
13. 演習8 『菊と刀』⑧
14. 演習9 『菊と刀』⑨
15. まとめと評価 日本文化と「わたし」

6. 成績評価方法：

発表の成果と出席

7. 教科書および参考書：

R. ベネディクト『菊と刀』（講談社学術文庫）

8. 授業時間外学習：

発表資料の作成

9. その他：

国際共修ゼミ（外国人留学生・日本人学生）